

地域の安寧と繁栄を見守る

あんない
しもにたそうちんじゅ

下仁田総鎮守 諏訪神社

すわじんじや

下仁田町の中心に鎮座する諏訪神社は、約770年の歴史を誇ります。精緻で力強い彫刻が施された社殿が立派で寺社建築「大隅流」の建築物として一見の価値あり。また、日本ジオパークに認定されている下仁田地域は、諏訪神社の崖下の川原に関東で唯一、中央構造線を観察できる場所があります。



樹齢650年と推定される御神木の大ケヤキ(下仁田町指定天然記念物)



諏訪神社
群馬県甘楽郡下仁田町下仁田319

約770年の歴史ある神社

古社調査書によると、諏訪神社の創立は鎌倉時代の宝治・建長年間(1247～1256年)。信濃国上諏訪郡の信州諏訪大社より分霊を勧請して後、領主の小幡尾張守が祖先の再興を願い、下仁田村を含む近隣8ヶ村の鎮守として祀ったと伝わります。

御祭神は建御名方神(たけみなかたのみこと)、八坂刀賣命(やさかとのみこと)、品陀和氣命(はむだわけのみこと)で、古くは狩猟農耕の神、武士の時代は軍神。現在では産業、交通安全、縁結びの神様としても崇められています。明治41年(1908)3月14日に、下仁田町近隣6ヶ村の各社や末社など15の神々を合祀して、諏訪神社は下仁田町の総鎮守となりました。

大隅流の建築美を伝える

諏訪神社の社殿は、本殿・拝殿・幣殿と3つに分かれます。一番奥にある「本殿」は、正面側が庇のように前へ張り出した「一間社流造り」。前方に千鳥破風と唐破風の屋根を持つ「拝殿」と、中間で拝殿と本殿をつなぐように造られた「幣殿」があります。本殿と幣殿の間の床は途切れているのに屋根でつながっている造りの神社は全国的にも珍しい存在。

本殿は天保8年(1837)に寺社建築大隅流の名匠・柴宮長左衛門の一番弟子・矢崎善司昭方が建てました。幣殿と拝殿は、その9年後の弘化3年(1846)に善司の次男・矢崎房之進昭房が建てたものです。どちらも、江戸時代末期に養蚕により町が繁盛し建て替えられました。

境内に祀られている 近戸神社

諏訪神社の右手にある近戸神社は、明治41年に旧東村箕輪地区から移設され、諏訪神社に合祀されました。諏訪神社本殿より3年早い天保5年(1834)に、矢崎善司昭方によって建てられました。社殿の出来が素晴らしいかったため、諏訪神社を任されたと言われています。

近戸神社は、東日本の民間信仰の神を祀る千鹿頭神社ともいわれ、狩猟や農耕、火防(火伏せ)の神として崇められてきました。昭和になってからは、こんにゃくの不況脱却を願い、こんにゃく大黒天を祀るようになりました。毎年1月19日には神事が執り行われています。



写真は拝殿。社殿にはケヤキやクスなどの白木に、目を見張るような意匠を凝らした彫刻が施されています。



一間社流造りの本殿と幣殿



拝殿正面には二匹の大柄な龍が柱と梁の両方に巻き付く迫力満点の彫刻が見られます。



拝殿の虹梁(こうりょう)には渦巻く波の上を走る麒麟(きりん)が彫刻されています。

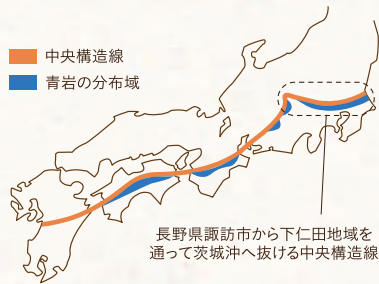
日本列島の地質構造を2分する「中央構造線」上に建つ

日本ジオパークに認定されている下仁田には関東で唯一「中央構造線」を観察できる場所があります。それが「川井の断層」と呼ばれるジオサイトで、諏訪神社の崖下に広がる河原を横切るように走っています。中央構造線は、日本がまだアジア大陸の一部だった頃に誕生した長大な断層。関東～九州へ続き、西南日本の地質構造を大きく二分しています。下仁田では、中央構造線を境に南側に海底火山が隆起してできた「青岩」の石畳が広がっています。北側には2000万年前の海底に蓄積した「下仁田層」が広がり、サメやカニ、貝などの海の生物の化石を見ることができます。

この中央構造線上には、全国的に有名な神社が多くあることが知られています。活断層が引き起こした地震の被害者を鎮魂するための祭祀場の発展説。御神域や聖域とすることで、活断層上に人が住まないようにという防災説などが、その理由として挙げられています。



青岩公園



下仁田層



下仁田町から東京都荒川区へ 山車が118年ぶりに里帰り

下仁田町・仲町地区の有志が「石浜神社里帰りプロジェクト」チームを結成。東京都荒川区の石浜神社の氏子会から下仁田町仲町地区に譲渡された山車を一年かけて修繕し、令和6年5月26日、石浜神社御鎮座1300年記念神幸祭を祝って山車巡行を行いました。お祝いと感謝の気持ちを込めた118年ぶりの里帰りを果たしました。

衰退した都会の 山車文化を全力で再現

「山車を譲渡していただいたおかげで、我々が今の祭りを楽しめている。東京の人達にも昔の山車祭りを体験していただきたいです」と、意気込みを話す石浜神社里帰りプロジェクトの実行委員長・荻野匡司さん。この一年、メンバー一丸となって山車の修繕に取り組んできました。

5月26日神幸祭の当日、そろいの法被を着たメンバーたちは、「せーの!」の掛け声を合図に人形山車をひき、笛や太鼓の祭囃子を披露しながら、荒川・台東両区にまたがる神社の氏子区域を巡行しました。住宅や町工場が並ぶ通りを進むと、沿道からカメラを向けられたり、家の前に出て手を

振ってもらったりと温かな歓迎を受けました。「みんなに喜んでもらって、本当に良かった」。荻野委員長をはじめメンバーたちは晴れやかな笑顔で喜びを分かち合いました。

最初の山車が下仁田の 祭り発展の原動力に

下仁田町で最初の山車は、明治39年(1906)に東京都荒川区にある石浜神社の氏子町会(旧橋場二丁目)から仲町地区に譲渡されたものです。楠木正成公の人形を乗せると高さ5・5メートル、長さ4・8メートル、幅2メートルになる人形山車は、江戸時代から明治時代初期にかけて東京で山車づくりの名人として知られた山本鉄之の指揮で製作されたとみられます。



東京都内では、現在神輿の文化が主流になっており、神輿とは違った山車の姿は、見物する人々にとってとてもまたとない貴重な体験になったといえます。



諏訪神社前の広場に7地区の山車が集結

諏訪神社 秋季例大祭

毎年10月中旬に2日間にわたり行われる「秋季例大祭」は、天保年間より続く180余年の歴史ある秋まつりです。7地区それぞれの勇壮な山車が繰り出され町内を巡行し、街中に威勢のいい掛け声や祭囃子が響くなど人々の熱気が沸き立ちます。

— 令和6年 10月12日・13日 —

天保の改革と神輿づくり

諏訪神社の神輿は、天保12年(1841)に江戸の職人によって製作されました。

「天保の改革」として引き締め政策がとられた年で、派手な山車や神輿の製作、神事・祭礼での芝居や見世物興業などが一切禁止となりました。

これにより、江戸で仕事ができなくなった多くの職人たちが、仕事を求めて地方に下り腕を振ったといえます。下仁田でも同様の動きがあったと推測されます。

神輿は製作後150年を迎えた年に、修理をして今日に至っています。



山車と山車がわずか数センチのところで向かい合う迫力満点の「競り」が見もの

山車の登場から118年

秋季例大祭に、最初の山車が登場したのは、明治39年(1906)。東京都荒川区にある石浜神社の祭礼で使用された人形山車が仲町地区に譲渡されたのが始まりです。

以来、下仁田各地区で山車の製作が行われるようになりました。現在、1基の神輿と7台の山車が祭りを盛り上げています。

当番町の若い衆が神輿を担いで町内をねりあるき、各地区の山車が繰り出し巡行します。

山車の上の舞方の優艶な舞と梶方の荒々しい梶さばきは必見。特に山車がすれ違う際のお囃子の競り合いは近隣の祭りにはない迫力があり、歴史ある勇壮な祭りとして知られています。



今年の当番町は旭町



山車修繕作業(電線の下を通れるよう人形を上下できる昇降機の取付け)



令和6年5月25日、石浜神社御鎮座1300年記念神幸祭の前日に、44名のメンバーが現地入りし、スカイツリーを眺めながら人形山車を組立てました。

活躍の場を地方へ 移した山車

当時、東京の祭りでは、各町内が競い合って高さのある大きな山車を造りましたが、近代化で路面電車や電線が登場すると、山車の巡行が困難となり、祭りの華が威勢のよい神輿に代わりました。加えて、インフラ整備による町の財政事情の悪化などで、山車は関東の各地に払い下げられたり、譲渡されたりしました。

その頃、日露戦争の凱旋祝いに町内初となる山車の導入を計画していた下仁田

町仲町地区は、廃棄を惜しんだ石浜神社の氏子町会からの譲渡の申し入れを受けました。

石浜神社からの 協力要請に応えて

譲り受けた山車は、半世紀にわたり活躍しました。その山車をきっかけに、仲町以外の諏訪神社の氏子町会でも山車が造られるようになり、祭り文化発展の原動力になりました。

その後、山車の老朽化が進み新調することになると、山車のなかった本宿地区に譲られました。しかし、高齢化による担い手不足で、十数年前から山車庫で眠ったままとなりました。

平成24年(2012)、荒川区の区政80周年企画展で、山車と共に譲渡された楠木正成公の人形が展示されたことから、石浜神社の関係者と下仁田町仲町地区との交流が始まりました。そして、令和4年(2022)10月、石浜神社の宮司をはじめ御一行が下仁田を訪れ、御鎮座1300年記念例大祭への協力を求めました。

これを受けて仲町地区で

は、縁のある山車を修繕して石浜の地でお披露目しよう、有志で「石浜神社里帰りプロジェクト」を結成。老朽化の激しい山車の朽ちた木材を交換したり塗装を施したりと、できるだけ当時の姿に近づけるよう、一年にわたる修繕作業に30名ほどで取り組みました。



118年前に仲町に譲渡された山車



山車の柱に残る「橋場二丁目」を表す「橋二」の刻印

江戸型山車
製作者の木札